

# Cente Technical Information

発行番号	101-0107	Rev	第1版	発行日	2020/01/10
題名	fseek実行時、正しいセクタ位置を参照できない不具合について				
情報分類	障害情報				
適用製品	・Cente FileSystem Ver6.41				
影響API	fseek				
関連資料	なし				

## 【現象】

以下の手順で実行した場合、正しいセクタ位置を参照出来ません。

<発生手順>

- (1)ファイルデータ用バッファのメモリ(以降、動的メモリ)を全て使用中の状態にする。
- (2)クラスタサイズで割り切れるファイルに対して、次のいずれかの処理を実行する。
  - fopen()を"a"、又は"a+"モードで実行する。
  - fopen()を"w"、又は"w+"モードで実行後、fseek()でシーク位置を終端に移動する。
  - fopen()を"r"、又は"r+"モードで実行後、fseek()でシーク位置を終端に移動する。

## 【原因】

Ver6.41にてfseek()の移動速度向上のため、シーク位置の移動をセクタ単位からクラスタ単位に変更しているのですが、この修正時に不具合が混入しておりました。

具体的な症状ですが、

【3.現象】に記述された手順を実行すると、FAT領域でのチェーン情報更新時、次の空きクラスタが取得出来ないため、シーク位置が終端のクラスタとなります。

本症状が発生した状態でファイルの読み書きを実行すると、

以下の症状が発生します。

- ・ファイル書き込み:現在のセクタ位置から書き込みが発生するため、データが上書きされます。
- ・ファイル読み込み:次のセクタ情報が存在しないため、「CT\_EOF」のエラーが戻されます。

Cente FileSystemの仕様として、  
動的メモリが全て使用されてしまっている場合、静的メモリを使用するのですが、  
fseek()の移動速度向上のために追加した処理は、  
静的メモリが使用された場合の考慮まで出来ておりませんでした。

**【回避方法】**

- プログラムによる回避方法  
修正ソースにつきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上